

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

学校名	佐賀県立牛津高等学校						
1 前年度 評価結果の概要	・全職員が学校の教育目標の実現に向けて取り組むことができた。 ・学校評価アンケートでは保護者より本校の教育活動に対し、概ね好意的な評価を得ることができた。特に、基本的な生活習慣や規範ルールが身についていると感じている生徒・保護者が増加している。						
2 学校教育目標	人格の向上を目指し、教養を高めるとともに、専門的な知識・技術の習得を図り、心身ともに健全で調和のとれた有為な職業人として志を高く持ち、社会貢献できる人材を育成する。						
3 本年度の重点目標	・知・徳・体のバランスの取れた教育を推進し、魅力ある学校づくりを行う。 ・業務改善・教職員の働き方改革を促進する。						
4 重点取組内容・成果指標	中間評価				5 最終評価		
(1)共通評価項目							
重点取組		具体的取組		中間評価		最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○共通教科の基礎学力の向上	・基礎力診断テストの成績でD1以上の生徒の割合を50%以上にする。	・目標規準を意識した授業内容、課題の出し方について各教科内で共通理解を図る。	A	・8月末実施の基礎力診断テストの結果において、成果指標は達成できている。しかし、一部の教科及び分野においては、学習内容の定着に課題が見られるものもある。	A	・成果指標は達成できている。 ・各教科のテストや課題の提出等は概ねできているようだが、予習や復習に関しては家庭での学習が十分できるとは言い難い。さらなる基礎学力の定着を目指すには、継続的な指導が必要である。
	○家庭教育の充実 ・専門的学習の基礎・基本の定着 ・起業家マインドの育成	・家庭科技術検定の合格率100%を目指す。 ・学校設定科目「起業家入門」や学校家庭クラブ活動において起業家マインドの育成を目指す。	・指導方法や教材についての研究を行うと共に個々の到達度に応じた指導を行う。 ・技術の到達度を評価する独自のテストを実施する。 ・「起業家マインド」の育成について、「起業家入門」をはじめ、各科目において指導者の意識の共有化を図る。	B	・現在まで実施している家庭科技術検定に関しては、個々に応じた事後指導も含め、きめ細やかな指導を行っている。 ・「起業家入門Ⅰ」は新型コロナウイルス感染症の影響により実施していないが、「起業家入門Ⅱ」については各学科で専門的な知識・技術を生かした学習内容を行っている。	A	・指導方法や教材についての研究、個々に応じたきめ細やかな指導の効果で、被服、食物、保育分野の各技術検定において概ね目標は達成している。 ・「起業家入門Ⅱ」においては、地域活性をテーマとした各学科専門性を生かした商品開発などの学習を行うことができた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・講演会等を実施し、自他の生命を尊重できる生徒を育成する。またその内容について自己の問題としてとらえる能力を培う。	・命の大切さを学ぶ教室、性に関する講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にすることを育成するための指導を実施する。	A	・10月に性に関する講演会、12月に薬物乱用防止講話をオンラインによる全クラスへの配信という形で実施した。	A	・講演会後にアンケートなど振り返りの時間を設けることで、命の尊さを学んでいた。今後は講演会だけでなく、授業や様々な場面で振り返りを行うことが必要である。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	・いじめや差別をしない・させない・許さない意識が向上したと回答した生徒は80%以上にする。	・いじめに関するアンケートを2回以上実施し、また面談を活用し、生徒の実態把握に努めると共に、いじめの芽を早期発見する。	B	・いじめの認知・認知は、現時点で4件である。対応は組織的に行っている。 ・いじめに関するアンケートは、現時点で1回実施済み。	A	・「いじめを許さない教育が行われているか」に対し、生徒の肯定的回答が74.2%、わからないを含む否定的回答が23.3%であった。 ・面談や2回のいじめアンケート、日常の学校生活の観察で把握できた分の対応はできた。
	◎ふると佐賀への思いを醸成させるための教育活動	①「佐賀県に誇りや愛着を感じる／どちらかという感じる」と回答した生徒80%以上にする。 ②「地域貢献・活性化の活動を行うことが重要である」と考える生徒70%以上にする。	・佐賀県の歴史や風土について学ぶ講演会や「佐賀語り」等を活用した事業に4時間程度取り組む。 ・家庭クラブ活動において地域貢献・活性化のために生徒が主体的に取り組む活動を行う。	A	・佐賀城本丸歴史館より講師をお招きし、興味深いお話が聞けた。 また、佐賀の歴史を簡潔にまとめたDVDを視聴できたので、視覚的にも理解しやすかった。 ・牛尾梅林環境整備ボランティア活動を12月5日に行い、家庭クラブ役員、家庭クラブ委員が参加した。	A	・講演会後に実施した生徒アンケートでは「誇れること、愛着がある」との回答が81%であった。 ・第二回の環境整備ボランティアを募ったところ52名の希望者が集まり、意欲的に活動に取り組むことができた。「また参加したい」「次は友達を誘う」といった活動への理解と意欲が感じられた。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①(学校独自成果指標) ・朝食喫食率を90%以上にする。 ②「健康に食事は大切である」と考える生徒100%を目指す。	・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・アンケートを行い、意識の喚起を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。	B	・保健だよりをとおして、生徒に朝食の大切さを伝えた。 ・アンケートの結果、「健康に食事は大切である」と考える生徒は99.3%であった。今後、100%を目指したい。 ・家庭科の授業の中で、望ましい食習慣について理解させることができる。	A	・保健だより12月号の中で、朝食の大切さについて触れた。 ・アンケートの結果、「健康に食事は大切である」と考える生徒は99.3%であった。アンケートの結果を公表し、日頃から正しい食生活についての意識づけを行ってきたい。 ・家庭科(金学年)や保健(1年)の授業の中で、健康的な食生活について触れ、望ましい食習慣について理解させることができた。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	◎生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・講演会や集会等で規範意識の向上や命の大切さを訴えていく。 ・交通講話、登校指導、自転車点検等を行い交通事故防止、交通マナーの向上に努める。	A	・コロナ問題で感染防止のために体育館での全校集会ができなくなるなかで、オンラインによる全クラスへの配信ですべての講話を実施することができた。 ・登校指導や自転車点検を実施し、交通事故もなく過ごすことができていた。	A	・体育館での全校集会ができなくなるなかで、オンラインによる全クラスへの配信ですべての講話を実施することができた。 ・大きな交通事故もなく、過ごすことができていた。 ・SNSの正しい使い方や規範意識をもっと向上させたい。
●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校教育活動をより効果的にかつ継続可能な形で行うために、個人ではなく組織的に各指導にあたる。 ・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定	B	・時間外勤務時間の全職員平均25.29時間。 ・定時退勤日は毎週水曜日に設定しているが、なかなか定時退勤に至っていない。 ・学校閉庁日は夏季休業中に3日設定し、夏季休暇取得につながった。 ・部活動休業日の設定には、部活動間で差があるが、概ね適正である。	B	・時間外勤務時間(2月末現在)の職員平均24.37時間で、昨年度比15%減である。 ・定時退勤日は毎週水曜日に設定しているが、なかなか定時退勤に至っていない。 ・部活動休業日の設定には、部活動間で差があるが、概ね達成できている。
●…黒共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育							
5 総合評価・ 次年度への展望	本年度のまとめ ・全職員が本校の教育目標の実現にむけ、取り組むことができた。 ・学校評価アンケートでは、生徒・保護者から概ね良好な評価を得ることができた。特に、「基本的な生活習慣や規範意識」「電子黒板や学習用PCの効果的使用」では、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると90ポイント以上であった。 次年度への展望 ・学校教育目標の達成に向けた教育活動を展開し、唯一無二の誇り高き学校の実現を目指し、職員一丸となってその実現に努めていきたい。 ・学校教育目標やその達成状況の周知を含めた広報活動については、学校ホームページ等を利用し、より開かれた学校づくりに取り組み、生徒募集につなげたい。						